

<週報No.2, 862> 2, 973 回例会

2018年11月30日(金)

■会長/古屋 了 ■幹事/加藤 明博

◆司会=伊藤武利 SAA

◆ゲストビジター=本日はいらっしゃいません

◆出席報告

本 日	71.11%	14名欠席
前 回 訂 正	68.89%	15名欠席
11/16 訂正	76.09%	11名欠席
11/9 訂正	86.96%	6名欠席

◆ラッキーナンバー=No.29 八幡一成君

◆ニコニコボックス=●古屋了君、加藤明博君=新入会員卓話です。石田さんよろしくお願ひします。●古屋了君=加藤幹事、厚労省表彰受賞おめでとう。●加藤明博君=皆様のお陰で厚労大臣表彰受賞しました。3月24日祝賀会を行います。この度二級船舶操縦士の資格を取りました。●竹上幸浩君=本日プログラム委員会の担当例会です。●川村総一郎君、小針哲郎君=バスハイク22名の参加ありがとうございました。●森幸俊君=バスハイクにバスのご利用ありがとうございました。●玉本広人君、山科光一君、石田孝一君=バスハイクありがとうございました。●北川和彦君=河西さん藍綬褒章受章、加藤さん厚労大臣表彰、受賞おめでとうございます。●小口武男君=連続欠席申し訳ありません。八海山にもいけずに残念です。●山本實君=魚沼バスハイク欠席でした。●菊池俊樹君=頑張って出席します。●八幡一成君=ラッキーナンバーにあたって。

◆会長告知・古屋了会長=先日のバスハイクでは、多くの会員ご家族のご参加をいただきありがとうございました。残留組4名は諏訪ローターアクトクラブのホストによるアクターミーティングに参加しました。阿部会長以下4名の会員さんの責任あるコーディネートで立派な研修会を整えられましたが、益々の増強支援の必要も感じます。

さて、今日は塩尻の式場をしばしばふらりと訪れるおじさんのお話です。フェリススクレールは開業13年目。およそ1400組のカップルのお手伝いをさせていただいて



ますが、その中でお一人、10年前の息子の結婚式以来毎月のように式場を訪れてはスタッフを激励し続けて下さるのがHさん。スタッフから「お父さん、お父さん」と親しまれ塩尻市内の山間の集落で90代のお母さんと二人暮らし。送電線の保守等山林整備の仕事を生業として

います。

季節が変わるたびに、筍、アケビ、カキ、山栗やオニグルミ等の山の幸を届けながら、新聞広告の裏に“なぞなぞ”を書いてきてはスタッフになぞかけ遊びを仕掛けます。スタッフも山の幸を美味しく食べることはどんなに手間のかかることか学んでいます。毎年夏には、流しそうめんとバーベキューの企画を促してくださいます。スタッフ、隣近所の方やアルバイトさん、お父さんの家族、業者さんなどが浴衣姿のゆるーい感じで集まってきて、ゆく夏を楽しみます。アマチュア写真家としても高く評価されている芸術家でもあり、私たちはこのお父さんの姿を通じて、理屈や利害を超えたところにある人と人とのつながりのありようについて考えさせられています。



◆幹事報告・加藤明博幹

事=①本日のクラブフォーラムは石田会員の卓話です。宜しくお願ひします。

②「ダメ。ゼッタイ。」普及運動用資材の募金は4,958円集まりました。また例年通り、長野日報社様へ新春の年賀広告を掲

載します。③蓼科保養学園の図書贈呈式に金子市長よりお礼状を頂きました。その夜布半でアクト合同の夜間例会が行われ、親睦を深めました。④会長幹事会で31年3月9日に行われるIMのテーマが決まりました。直近になったらご案内します。⑤25日のバスハイクでは親睦員

会の皆さん有難う御座いました。

◆親睦委員会・小針哲郎委員長＝バスハイクは22名に参加いただきました。天候に恵まれ、ご家族共々楽しんでいただきました。7万坪の敷地に様々な施設があり、古民家を改造したレストランで食事をし、酒を造るスタッフが指標とする大吟醸など数種類の日本酒をいただきました。八海醸造さんから焼酎ハイボールを土産にいただきましたので、参加できなかった会員にお配りします。

◆クラブフォーラム・プログラム委員会・竹上幸浩委員長＝今日は石田孝一会員に新入会員卓話をお願いしまし



た。よろしく申し上げます。今年度は新入会員が多く、今年度内に全員にお話いただけないという嬉しい悲鳴を上げています。

●新入会員卓話・石田孝一会員＝茶道裏千家の話しをします。老後の楽しみとして27歳から始めました。昨



年茶名を取得しましたが25年前と比べて会員は半数に減少し、老後の糧とできるかこの場で検討したいと思いま

す。

茶道裏千家は「今日庵」という法人が主催しており、理事長は千宗室さんです。

茶は唐の陸羽の書いた「茶経」という書物で日本に紹介されました。その後鎌倉時代に栄西が茶の苗を持ち帰って広まり、室町時代の貴族の間に闘茶（茶の銘

柄を当てる遊び）が流行りました。その後千利休らにより、わび茶が武士階級に普及し、江戸時代には町人にも普及しました。江戸時代は大名の最高の接待の場となりました。佗茶は総合芸術で、今は愛好者のコミュニケーションの場ともなっています。

茶道は茶事といわれる濃茶を差し上げるセレモニーの流れを習うもので、作法は、段階に分かれ、許状がないと次の段階に行けません。

茶道の道場の運営には25人の弟子がないと経営的に難しいですが、茶道人口の減少が避けられず、情報の開示、茶道の楽しさのPR、料金の明確化、男性や年配の方へのアプローチが必要と思われ、老後の糧とするには厳しそうです。

最後に千利休が残した茶の秘伝のひとつを紹介します。「規矩作法守りつくして破るとも 離るとても本を忘るな」

◆今後の例会日程

12月7日	金	クラブフォーラム（1年を振り返って）
12月14日	金	クラブ協議会（年次総会）
12月21日	金	家族例会（忘年例会）
12月28日	金	法定休日

執筆担当 北川和彦